



蓮-REN『風にのって』

<レーベル>
Michipine Studio

- <曲目>
1. SORAN
 2. 風にのって
 3. 阿弗利加
 4. Rain tree—暮雨—
 5. フジヤマ
 6. Ancient blue
 7. たいまつ
 8. Lumination

<共演>
内田佳宏(チェロ)・Ajo(和太鼓)
ゲスト参加:白田路明(津軽三味線)

中村仁樹の最新作『風にのって』

和と洋、古代と現代の時空間を縦横に行き来する音絵巻。

尺八奏者・中村仁樹の音楽を初めて聴いたのは2012年11月、旧知の米国在住のハーピスト・古佐小基史とのデュオ・ライブでした。予備知識のないまま聴いたステージは、プログラムが進むにしたがって、邦楽器の域を超えて尺八の可能性を表現する中村の技巧にどんどん引き込まれ、未知の実力者を発見した喜びを得たのです。ジャズ・ミュージシャンに通じる即興演奏のテクニックをどのようにして身につけたのか、という興味も湧きました。

愛媛県で生まれ育ち、東京藝術大学音楽学部邦楽科を卒業。東京邦楽コンクールなど、受賞多数。藤原道山(尺八奏者)、上妻宏光(津軽三味線奏者)、川井郁子(バイオリニスト)、坂本冬美(歌手)、紫舟(書家)らとコラボレーションした経歴は邦楽界の王道を歩きながら、他ジャンルのアーティストとの共演を通

じて、自己の領域を切り開いてきた印象を受けます。

「3歳からクラシック・ピアノを習って、小学生の時には作曲もしました。兄がロック・バンドを組んで洋楽のCDをたくさん持っていたので、それらを聴いて、中学からエレキギターを演奏。高校時代に和楽器を始めたいと思い、家にあった父の尺八で邦楽に本格的に取り組んだのです。その時に師事した先生が尺八に対するお堅いイメージを変えてくれたのも幸いでした」。

さらに音楽性を広げるきっかけになったのが、24歳でジャズ・ピアニストと出会ったこと。それまでは全く即興演奏をするつもりがなかったのですが、ユニットでの活動を続ける中で、生々しいリアリティを生み出す特別な空間となる即興の魅力に引き込まれたといいます。

ジャズの巨匠マイルス・デイビス、

ジョン・コルトレーン、マッコイ・タイナーの研究を通じて、ジャズの技法と尺八の機能の可能性を模索。モード・ジャズと民謡の音階との共通点を発見し、ギター奏法を応用する独自のアイデアによって個性を確立した点が新しさといえるでしょう。

現在、活動の中心となっているのが、二十五絃箏の衣袋聖志との“蓮-REN-”です。10年前からの友人とともに、2012年からユニットとして始動。日本各地と世界各国を訪れて、大自然から得た着想で楽曲を制作し、和楽器の可能性を追求しながら独自の世界を創造しています。

最新作『風にのって』はチェロ、和太鼓、津軽三味線の各奏者をゲストに迎えて、和と洋、古代と現代の時空間を縦横に行き来する音絵巻と呼ぶべきサウンドに仕上がっています。マルチな才能は、今後ますます開花していくに違いありません。

杉田宏樹 すぎたひろき

音楽ジャーナリスト。『ジャズジャパン』『CDジャーナル』などの音楽誌にレギュラー執筆。さらに、ラジオの音楽番組の構成やパーソナリティをつとめるなど、多方面にわたって活躍中。